

1 「心のノート」を生かした道德教育の充実

1 子どもが道德性を自ら育むための「心のノート」

子どもはだれでもよりよく生きたいと願っている。その気持ちを生活の中で実現していこうとする豊かな人間性とその基盤となる道德性を育てることが心の教育であり、道德教育が目指すものである。

しかし、現在、子どもの道德性の育成を阻害している状況も種々指摘されている。例えば、家庭や地域社会の教育機能が揺らいでいること、社会全体のモラルが低下していること、子どもの自制心や規範意識の希薄化、生活習慣の確立が不十分であることなどが挙げられる。また、国際化、情報化、環境問題の深刻化、福祉や健康への関心の高まりなど、社会の変化などへの対応が求められている。

このような状況を踏まえ、道德教育の一層の充実を図ることが必要であり、「心のノート」もそれに資するために作成され10年が経とうとする。子どもの心に寄り添いながら、子どもと共に育つ姿勢で、「心のノート」が生かされることが期待される。子ども一人一人が、「心のノート」を手掛かりとして、人間としてよりよく生きようとする心や共に生きようとする心など「生きる力」を自ら育んでいくことを願っている。

2 道德教育の改訂の要点と「心のノート」

道德教育の改訂については、「心のノート」活用のために（小学校・中学校）」においてまとめられている。小・中学校の各「学習指導要領解説 道德編」に道德教育の目標の改善に加え、以下の事項が示されている。今後の「心のノート」の活用にあたって特に留意すべき視点として押さえておきたい（○は小学校版、●は中学校版、◎は共通）。

- ◎道德の時間を「道德の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うもの」と示し、その中核的な役割や性格を明確にした。
- ◎学習指導要領の各教科等の記述部分において、各教科等の特質に応じて適切な指導を行うよう道德性の育成について明記した。
- 集団宿泊活動などの豊かな体験活動を通して子どもの内面に根ざした道德性の育成に配慮すること。
- 職場体験活動などの豊かな体験活動や道德的実践を充実させ、生徒の道德性の育成に配慮するよう示した。
- 道德の時間の目標に「自己の生き方についての考えを深める」ことを加えた。
- 道德の時間の目標を「道德的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め」として、中学校段階における特質を一層明確にした。
- ◎道德の内容項目について新たに加えたり表現を改善したりするとともに、各学年段階ごとの内容項目は相当する各学年において全て取り上げることを明記した。
- ◎校長の方針の下に道德教育推進教師を中心とした協力体制を充実し、道德教育の全体計画について各教科等の内容及び時期を示すなど一層具体的な計画の作成について示した。
- 自立心や自律性、自他の生命を尊重する心をいずれの学年段階においても重視するとともに各学年段階ごとに特に配慮すべき重点化の内容を具体的に示した。
- 今日の問題状況や生徒の実態等に即した指導をより一層充実し展開できるよう、生徒の発達の段階や特性等を踏まえ、特に配慮すべき重点化の内容を一層具体的に示した。
- ◎道德の時間の指導について、児童（●生徒）が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用、表現する機会の充実、情報モラルに関する指導等への配慮について示した。
- ◎授業の公開、家庭や地域社会との共通理解について一層強調した。

3 作成の趣旨や特徴から考える「心のノート」の生かし方

(1) 子どもが道德的に成長していくための課題を見つけられるように

「心のノート」には、学習指導要領に示された道德の内容が、言葉や図でわかりやすく表現されていたり、ワークシートが盛り込まれていたり内容が充実している。子どもが自らの興味・関心を高めるよう全てのページをリプリントしたものを用意するなど子どものニーズに合うよう教室に備えておきたい。子どもが自由に見て、活用する環境を整えておく。教師は、子どもの実態に応じて子どもが自己の課題を見つけられるように種々援助することが大切である。

(2) 子ども自身の「心の成長の記録」となるように

「心のノート」は小学校第1学年から中学校第3学年まで用意されている。教師は、適宜子ども一人一人分を印刷し、それを綴じてファイルさせるなど「○○の心のノート」などを作成できるようにしたい。子どもは、自分自身について考えたいとき、新しい出来事に会ったとき、学習で活用したときなどに折に触れて記入することにより、自分自身を見る目を豊かにしていく。教師はそのような活用が促されるように機会を捉えて指導したい。そうすることによって、「心のノート」は子どもの心の成長の記録となり、「心の宝物」となるであろう。

(3) 要となる「道德の時間」の指導において活用が促されるように

「心のノート」は、各教科で用いられる教科書や道德の時間で広く活用される副読本に代わるものではない。日常生活や学校の教育活動全体を通じて子ども自身が道德的価値について日常的に考えることに資する教材として作成されたものである。しかし、日々の「道德の時間」の指導において、例えば、導入や終末において効果的に活用したり、話し合い・意見交流など1時間を通して活用したりする手立てを工夫することが求められる。

(4) 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動の指導において活用が促されるように

各教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動において道德教育を一層重視することが求められている。したがって、子どもの日常の学習場面において、各教科等の特質に応じて「心のノート」の活用をさらに進めたい。それぞれの学習内容が道德教育の内容項目とどのような関連が図られているか検討し、必要な箇所をダウンロードするなどして補助的な教材として活用したい。また、特別活動は子どもの道德的実践を促す重要な場でもある。学級活動のみならずクラブ活動、児童会・生徒会活動等でも活用を図りたい。

(5) 学校や家庭の日常生活での活用が促されるように

「心のノート」は、子どもが日常生活や教育活動等の中で活用するものとして編集されている。したがって、教師はどの子どもも意欲的に活用することができるように、学校の日常生活や各教科等以外の教育活動の中でも、機会を捉えて用いるようにしたい。特に、朝や帰りの会、学級・学校における各種掲示物としての活用を図るようにしたい。

また、長期休業中などには必要な部分を印刷して家庭に持ち帰らせ、自分なりのノートとしてファイル化させることも一つの方法である。

(6) 学校・家庭・地域社会の連携を進める資料として生かすことができるように

「心のノート」は、家庭や地域社会との「心の架け橋」としての役割を果たすことが期待される。家庭でも、子どもと一緒に「心のノート」の内容を話題としたり、「心のノート」に書き込んだりして、学校と家庭が連携して子どもの道德性を育むことができるようにしたい。また、「心のノート」を地域社会の人々との道德教育の共通理解のための資料として生かすなどして、保護者、地域社会の人々、教師の連携が一層充実していくことが期待される。